

319-1953

日本組織培養学会
平成5年2月5日

会員通信

第78号

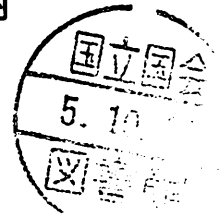
発行責任者
※宇田川康博(慶應大医学部)
増井 徹(癌研)
山田堅一郎(国立子研)
下田 隆夫(社保相模野病)
※〒160 東京都新宿区信濃町35
慶應大学医学部産婦人科
電話 03-3353-1211 内2393
Fax 03-3226-1667

§ 日本組織培養学会第66回大会のご案内

開催地 茨城県つくば市

会場 工業技術院つくば研究センター

期 日 1993年6月17日(木)、6月18日(金)



大会会長：三井洋司

生命工学工業技術研究所

〒305 つくば市東1-1

Tel. 0298-54-6070

1. 大会日程及び予定のプログラム

場 所 工業技術院つくば研究センター 共用講堂
〒305 つくば市東1-1
Tel. (0298) 54-2267, 2268 (会場受付)
Fax. (0298) 54-6009 (生命工学工業技術研究所)

日 程

	時 間	プログラム	場 所
6/17 (木)	8:15-17:00	受 付	1階ホール
	9:00-12:00	シンポジウム (I)	大講堂
	15:00-16:00	特 別 講 演 (I)	大講堂
	16:00-18:00	シンポジウム (II)	大講堂
	18:30-20:00	懇 親 会	
		一般講演 ポスター講演	大講堂, 中会議室 多目的会議室
6/18 (金)	8:15-17:00	受 付	1階ホール
	9:00-11:00	シンポジウム (III)	大講堂
	13:00-14:00	総 会	大講堂
	14:00-15:00	特 別 講 演 (II)	大講堂
	15:00-17:00	シンポジウム (IV)	大講堂
		一般講演 ポスター講演	大講堂, 中会議室 多目的会議室

特別講演 (I)

6月17日 15:00-16:00

「Tumor suppression and senescent gene in human cultured cells」

Dr. Olivia P. Smith, Dr. James R. Smith

(ペイラー大学準教授、ペイラー大学教授)

特別講演 (II)

6月18日 14:00-15:00

「上皮細胞の増殖と分化を維持するためのシグナル伝達機構」

黒木 登志夫 博士

(東京大学・医科学研究所 教授)

シンポジウム (I)

6月17日 9:00-12:00

「薬の発見、開発と組織培養」

コーディネーター

大野 雅二 (エーザイ 筑波研究所)

山田 正篤 (食品薬品安全センター)

シンポジウム (II)

6月17日 16:00-18:00

「癌抑制と老化の遺伝子」

コーディネーター

井出 利憲 (広島大学 医学部)

シンポジウム (III)

6月18日 9:00-11:00

「性ホルモンの作用機序」

コーディネーター

島崎 淳 (千葉大学 医学部)

シンポジウム (IV)

6月18日 15:00-17:00

「遺伝子ターゲティング」

コーディネーター

相沢 慎一 (理化学研究所 ライフサイエンス筑波研究センター)

2. 会場と宿泊の案内

交通案内

JR東日本

常磐線 荒川沖駅下車 (上野駅より70分)

東口より関東鉄道バス「筑波大中央」「建築研」「国土地理院」「つくばセンター」

(洞峰公園経由は不可) 行き乗車 (約20分)、並木2丁目下車、徒歩5分、または

「工業技術院」行き乗車、終点下車、徒歩1分

西口よりタクシーで約10分

高速バス

東京駅八重洲南口より「つくばセンター」行き乗車 (約70分)、並木大橋下車、徒歩約20分

自動車

常盤高速道 桜土浦IC

工業技術院つくばセンター内の外周道路駐車場より徒歩5分

宿泊について

大会参加者の宿泊及びチケットの取り扱いを、JTBつくば支店に依頼しました。同封の宿泊のしおりを参照の上、お申し込み下さい。

JTBつくば支店

305 茨城県つくば市竹園1-6-1 つくば三井ビル内

「日本組織培養学会 第66回大会」係

担当：中根、内田 Tel. 0298-55-6522

Fax. 0298-55-6528

なお、次のホテルにつきましては、宿泊希望者が直接ホテルにお申し込み下さい。

(朝食別、税サービス料込、ツインは2名分の料金)

ホテルクラス	ホテル名	宿泊料金
都市ホテル	つくば第一ホテル	シングル 10,000円位
	0298-52-1112	ツイン 20,000円位
ビジネスホテル	ホテルニュー鷹	シングル 6,700円位
	0298-51-4788	ツイン 11,000円位

オプションツアーについて

6月19日(土)

9時-15時(最小催行人員 30名)

「つくば研究団地と筑波山神社」

急速に発展しつつある、つくば研究学園都市の研究団地群を外から見学して、学園都市の雰囲気に触れて頂くとともに、万葉集、古今和歌集にも詠まれている全国屈指の名社、筑波山神社を訪れ、更に筑波山頂より関東平野を望みます。

(希望者が30名に満たないときは、中止致します。)

参加申込書に記入の上、2月20日までに申し込み下さい。

ツアー料金は、昼食代込みで7,000円です。

3. 参加者と講演者へのお知らせ

1. 参加される方へ

- (1) 学会参加者の受付は、工業技術院つくば研究センター共用講堂の一階玄関ホールで行います。

受付時間は次の通りです。

6月17日(木) 8時15分-17時

6月18日(金) 8時15分-17時

- (2) 大会参加者の参加費は、次の通りです。

会 員 5,000円

非 会 員 6,000円

学 生 3,000円

抄録料金 3,000円

- (3) 大会の懇親会は、6月17日(木)18時30分から20時までの予定で、「つくば研究支援センターテクノホール」で行います(大会会場より徒歩5分)。懇親会の会費は5,000円です。参加受付でお支払下さい。
- (4) 大会開催中の昼食は、工業技術院内の食堂(3ヶ所)、または周辺のレストランをご利用下さい。

2. 講演される方へ

- (1) 講演時間は、次のようにします。制限時間をお守り下さい。

特別講演 60分

一般講演 討論を含めて15分

シンポジウムでの講演者の発表時間は、座長の指示に従って下さい。

- (2) 講演用のスライドは、発表30分前までに、会場のスライド受付にお渡し下さい。講演に使用できるスライドは35ミリのものに限り、OHPは用意致しません。
- (3) ポスター講演される方は、1.8m×1.8mのパネルを用意致しますので、午前10時までに展示して下さい。

3. 討論に参加される方へ

ご自分の所属と名前を明らかにした後、簡潔に質問およびコメントを述べるようにして下さい。

4. 講演の申し込みについて

大会実行委員会では、第66回大会で発表する講演(口頭およびポスター)の演題を募集致します。

申し込み方法

講演を申し込まれる方は、講演申し込み用紙の所定の欄に必要な事項を記入の上、申し込んで下さい。

ポスター発表を積極的にご活用下さい。会場スペースの関係で、発表形式で意にそえないこともあります。ご了承下さい。

講演を予定する方は、口頭、ポスターを問わず、抄録原稿を大会事務局にお送り下さい。抄録原稿の指定用紙を1枚添付致しました。2枚以上必要な方は、大会事務局まで請求して下さい。

講演申し込み締切日 2月20日(土)

参加申し込み 2月20日(土)

懇親会申し込み 2月20日(土)

(組織培養研究(11巻4号360ページ)には、2月13日締め切りとお知らせ致しましたが、2月20日に致します。)

抄録提出締め切り日 3月13日(土)

抄録原稿の記載要項

1. 英文でも和文でも結構です。
2. 原稿は直接オフセットコピーとなりますので、できるだけクリアーな文字にしてください。
3. 抄録用紙の必要欄はすべて記入し、特に最下段の演題名(英文)、及び演者、所属(英文)欄は、必ずご記入下さい。

申し込み先、問い合わせ先

第66回大会事務局 岡 修一
〒305 茨城県つくば市東1-1
工業技術院 生命工学工業技術研究所
細胞機能研究室内
日本組織培養学会 第66回大会事務局
Tel: 0298-54-6070
Fax: 0298-54-6095

一般講演、展示（ポスター）講演の申込書

締切日 1993年2月20日（土曜日）

No.

演題名：	
演者名：	
所属：	
所在地：〒	
TEL：	FAX：
希望発表形式： （○印を記入下さい）	
□頭発表	ポスター発表

注）一般講演、ポスター講演の申込みをされた方は、別添の抄録原稿用紙を用い、3月13日（土曜日）までに、抄録原稿を大会事務局に提出して下さい。なお、抄録原稿の用紙を2枚以上必要な方は、事務局まで請求して下さい。

----- <切り取り線> -----

参加申込書

締切日 1993年2月20日（土曜日）

氏 名	懇親会（参加は○、不参加×）
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	
所属：	
所在地：〒	
TEL：	FAX：

オプションツアー参加申込書

締切日 1993年2月20日(土曜日)

氏 名	
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	
所属：	
所在地：〒	
TEL：	FAX：

なお、旅行代金のお支払方法等につきましては、ツアー成立後、希望者に別途お知らせ致します。(お1人様、7,000円です。)

*本用紙をコピーしてお使い下さい。

日本組織培養学会 第66回大会 ご参加の皆様へ

[つくば市 (工業技術院共用講堂) 6月17日 (木)~6月18日 (金)]

〈宿泊予約申込についてのご案内〉

日本組織培養学会 第66回大会の開催を心よりお慶び申し上げます。

首記学会は茨城県つくば市 (研究学園都市) の工業技術院共用講堂に於いて開催されますが、JTBつくば支店では、ご参加の皆様方のために、宿泊お申し込みの受付をさせて頂く事となりました。つきましては下記要領により、宿泊お申し込みを受付させて頂きますので、お早めのお申し込みをお願い申し上げます。

記

1. 宿泊期間 : 93年6月16日 (水) ~6月18日 (金) 3泊

2. 宿泊料金 : 下記料金は1泊、朝食・サービス料込となっております。(消費税別)

ホテルクラス	予定ホテル名	室タイプ	宿泊料金	転記号
つくば ビジネス	ホテルデイリーイン	シングル	¥6,700	BS
つくば 都市ホテル	ホテルサンルートつくば	シングル	¥8,400	CS
		ツイン	¥7,950	CT
	ホテルグランド東雲	シングル	¥7,700	DS
		ツイン	¥6,700	DT

★ホテルグランド東雲は、6/17(木)1泊のみの宿泊です。

3. お申し込み方法

- (1) 宿泊ホテルは140名分確保してあります。申込順にご希望クラス (つくばビジネス、都市ホテル等)、ご希望タイプ (シングル・ツイン等) を決定させていただきますので、ご希望に添えない場合もございますのでご了承下さい。
- (2) 別紙お申込書に該当事項をご記入の上、5月14日 (金) 必着にて下記宛ご郵送頂くか、又はFAXにてお申し込み下さい。

〒305 茨城県つくば市竹園1-6-1 つくば三井ビル内

JTBつくば支店「日本組織培養学会 第66回大会」係

担当: 中根・内田

TEL: 0298-55-6522

FAX: 0298-55-6528

- (3) お申し込みの方には、1993年6月4日 (金) 頃迄に予約確認書をご返送致します。尚、お電話でのお申し込みは、トラブルの原因となりますのでご遠慮下さい。

4. お申し込み締切日

1993年5月14日(金)必着

5. 宿泊料金のお支払い方法

宿泊予約確認書送付の際、宿泊料金の請求書を同封させていただきますので、6月12日(土)迄に下記口座へお振込み願います。

振込先：常陽銀行研究学園都市支店 普通口座 6982693
 口座名 JTBつくば支店

6. 事務通信費

お一人様1件につき500円をいただきますのでご了承下さい。

7. 変更・取消料について

一旦お申し込みを頂いた後、お客様のご都合でお取消、又は変更された場合、下記の取消・変更手数料を申し受けさせていただきます。

14日前～7日前	6日前～前々日	前日	当日以降
料金の20%	料金の30%	料金の50%	全額

----- <切り取り線> -----

日本組織培養学会 第66回大会 宿泊申込書
 登録No. _____

お申込日	年 月 日	連絡先	勤務先 自宅(ご希望に○印)			
勤務先		住所				
よりがな 氏名		電話	電話	()	-	
		及ファクシミリ	ファクシミリ	()	-	
宿泊者氏名	宿泊		宿泊日			備考
	男	女	6/16 (水)	6/17 (木)	6/18 (金)	
《記入例》 筑波一郎	○		×	BS	BS	

上記の通り申し込みます。 氏名 _____ 印

※宿泊の同室(ツイン)をご希望される方は、同室の方の氏名を備考欄にご記入下さい。
 ※上記以外の宿泊希望日がありましたら、備考欄にご記入下さい。

*本用紙をコピーしてお使い下さい。

§ 第7回日本組織培養学会秋季シンポジウムを終えて

世話人 沖垣 達

前号(第77号)で御案内した上記のシンポジウム「肝・腎細胞培養をめぐる最近の話題」は、天候にも恵まれて、予定通り行われました。

第1部の「肝臓細胞」では、岡山大学難波正義教授の司会のもとに増殖、制御因子、遺伝子導入、および人工肝開発の4題の発表があり活発な討論が行われました。第2部「腎細胞」では、私共の研究室で確立した腎糸球体上皮細胞株を用いた腎炎炎症機構、および細胞膜構成成分の糖脂質の行動、加えてメサンギウム細胞の役割の3題について、川崎医科大学大澤源吾教授の司会で討論が進みました。

幸いにも今回は、仙台から九州にわたる遠来の方々を含め約120名の参加者を得ましたが、主催地である中国四国地域の研究者やバイオ事業関連者からも、極めて有意義であったとの言葉を頂いています。積極的に参加されたシンポジストの先生方、討論に参加下さった会員、非会員の方々、そして後援、協賛を賜った諸団体に心から御礼を申し上げます。

§ 日本組織培養学会、細胞工学委員会シンポジウムについて

会員の皆様の御協力により、本シンポジウムへの参加申込者の数が会場の収容能力を越えました。皆様の御協力に感謝致します。

これからも細胞工学の発展をめざした、組織培養研究の新しい可能性を捜る企画を考えて行きたいと存じております。

平成4年12月 細胞工学委員会委員長
小林 茂 保

§ 日本組織培養学会平成4年度第2回幹事会議事録

日時 平成4年11月21日(土) 午前9時～午後15時
場所 重井病院会議室(岡山県倉敷市)
出席者 蔵本博行(会長)、安野洋一、沖垣 達、加治和彦、山田堅一郎、浜口和之、
蓮村 哲、増井 徹、秦 宏樹(幹事)、奥村秀夫(IACC会長)

I. 報告事項

1) 会長報告

- ① Bio Japan '92 が平成4年8月横浜で開催され日本組織培養学会会長として招

待され出席した。

② 「大学と化学」公開シンポジウム後援

③ 米国TCA学会開催

2) 庶務報告

① 日本複写権センターとの関連の件

日本複写センターとは一般に放任されている出版物の複写（コピー）行為から著作権者の権利を擁護する一方、コピー利用者の便宜を図る目的で権利を集中的に管理していく団体である。現在は任意団体であるが、将来的には社団法人化され、日本組織培養学会は機関誌「組織培養研究」を発行しているため著作権者として契約する一方、利用者として包括許諾契約（年間約2,000円）を結ぶものである。

② 入会・退会者（平成4年5月～10月）報告

入会希望者：正会員21名

退会希望者：正会員9名、賛助会員2社

3) 会計報告

4) 奨励賞選考報告

平成4年11月の時点で応募、推薦いずれも0件である。

5) 会員通信報告

第78号は平成4年12月脱稿、平成5年初旬発行予定

第79号は平成5年大会前に発行予定

6) 各種委員会報告

① 編集委員会報告

i) 「組織培養研究」11巻1号～3号発行収支報告ならびに4号準備状況

ii) 「組織培養研究」は今年度より4回刊行となったが、11巻2号は大会抄録集であり、今年度の予算の補助は第3号から行う。

iii) 会費値上げに伴う会則付則の記載、役員選出に関する細則第3章の記載を次号より現行に訂正して掲載する。

② 細胞バンク委員会報告

第2次細胞バンク委員会（平成2年5月～平成4年5月）活動報告書が提出された。

③ 細胞工学委員会報告

i) 細胞工学シンポジウム（平成5年1月29日）開催

ii) 細胞工学委員会要項が草案中であり、将来幹事会に提出予定

④ 教育研究システム委員会報告

i) 「細胞成長因子Ⅲ」（朝倉書店）の刊行

ii) 「組織培養の技術Ⅲ」の刊行の検討

iii) 「大学教科課程に準拠した基本的な培養技術の指導書」の刊行の検討

iv) 培養技術実技講習会開催の検討

v) 秋季シンポジウムの長期的立案

vi) 刊行物の中国語翻訳

II. 協議事項

1) 新入会希望者全員の入会の承認

2) 各種委員会の報告事項の公表

今回細胞バンク委員会の報告書が幹事会に提出されたが、各種委員会の活動、成果報告に関しては規定がなかったが、幹事会の承認を得た後に、「会員通信」により会員に報告されること。特に学術的要素の強い業績、成果に関しては、学術論文の形式を持って「組織培養研究」に掲載することを妨げない。以上が決議された。

3) 編集委員会委員の再選、規定の確認

- ① 委員長より会長宛に現編集委員の留任の意向があり、幹事会が承認した。
- ② 編集委員会規定第2条3項に編集委員は、学会幹事選挙年度に2名ずつ改選とあるので、それを是正する目的で、今回は特例を持って任期を調節し、時期改選時期に合わせていく。

4) IACC問題について

- ① 米国TCAより会長宛にIACCよりの脱会の意志表示があった。
- ② 奥村IACC会長よりIACC活動方針につき1993年度シンポジウム、1996年度国際大会開催の意向があることが示された。
- ③ 日本組織培養学会は今年度もIACC分担金を年20万円予算に計上しており、協力の意志があることを再確認した。
- ④ 日本組織培養学会からのIACC委員3名を今年度も存続させることとし、幹事会は今年度の人選を会長に勧告、一任した。
- ⑤ 日本組織培養学会は、IACCに対して支払っていた分担金の会計報告書の提出を求めている。

S 第6回日本組織培養学会奨励賞（平成4年度）を受賞して

北里大学・医学部・産婦人科 秦 宏樹

この度日本組織培養学会第63回大会シンポジウム「ホルモン依存性腫瘍」において『ホルモン依存性腫瘍としての子宮体癌』を担当、発表させて頂きましたことに対して第6回日本組織培養学会奨励賞を頂きました。子宮体癌は、現在我が国で乳癌と共に増加傾向にあり、エストロゲン、プロゲステロンという2種類の卵巣ホルモンにより、増殖ならびに分化機能が完全に制御されている子宮内膜を発生母地とするホルモン依存性腫瘍であります。子宮体癌の多くはホルモン受容体を有しホルモン療法も有効ですが、実際の婦人科診療の場では、ホルモン反応性を喪失し、治療にも抵抗性を示す症例も少なくありません。子宮体癌の基礎的研究は、発癌機序、癌自立性増殖すなわちホルモン非依存性の獲得過程の探究が重要視されておりますが、それはin vitro培養系に樹立さ

れた細胞株に寄与するところが多大であります。一般に組織培養の仕事に従事されている皆様は共通に感じていらっしゃると思いますが、樹立された細胞は原腫瘍に比較してかなり増殖能が強く低分化、未分化なものが多いこと、また継代を繰り返すことによりより低分化な方向に変化していくことであります。今回の受賞の対象になりました論文は、ホルモン依存性腫瘍としての性格を有して樹立された子宮体癌細胞（Ishikawa細胞）を用いた研究であり、*in vitro*におけるホルモン依存性の性格すなわちホルモン受容体の局在、ホルモン投与による受容体の変動を、近年開発されたモノクローナル抗体を用いた免疫細胞染色法によって確認したものであります。現在組織培養の技術は、組織培養学会の開設以来の諸先輩方のご尽力により無菌操作、滅菌法なども含めほぼ完全に確立されてきていると思います。しかし今回の細胞株の様に、原腫瘍の性格を充分に*in vitro*に反映しているものは限られているのが現状であります。今回の受賞はその極めて貴重な細胞株を用いて仕事することができたという幸運によるものと感謝しております。そして現在我々が興味あるホルモンの作用機序と発癌との関わりをより深く研究していくためにも、Ishikawa細胞の様な原腫瘍の性格を*in vitro*で発揮してくれる細胞株の存在であります。これを機に今後組織培養の技術も、より生体内に近い状態を供給できる培養系の確立が必要であると痛感しております。一般会員の皆様には紙面をお借り致しまして感謝申し上げますと共に、奨励賞選考にあたりご尽力賜りました幹事の皆様に厚く御礼申し上げます。

§ 提案 学協会著作権協議会へ加盟の件

加治和彦（庶務幹事）

ご承知の先生方も多いと思われませんが、我々が気軽に論文をコピーし、それに対し料金を支払わないことは、著作権を侵害する違法行為です。逆に、論文がコピーされた場合、著作者はしかるべき料金を得る権利があります。著作権の保護は、いま大きな問題になっています。それは、複写機の普及、デジタルによる音声や映像のなどコピー技術の進歩によって、著作者に被害がおよぶケースが頻発していることによります。また外国、とくに米国や欧州諸国で著作権の意識が高いことから、国際的にも大きな問題になってきております。

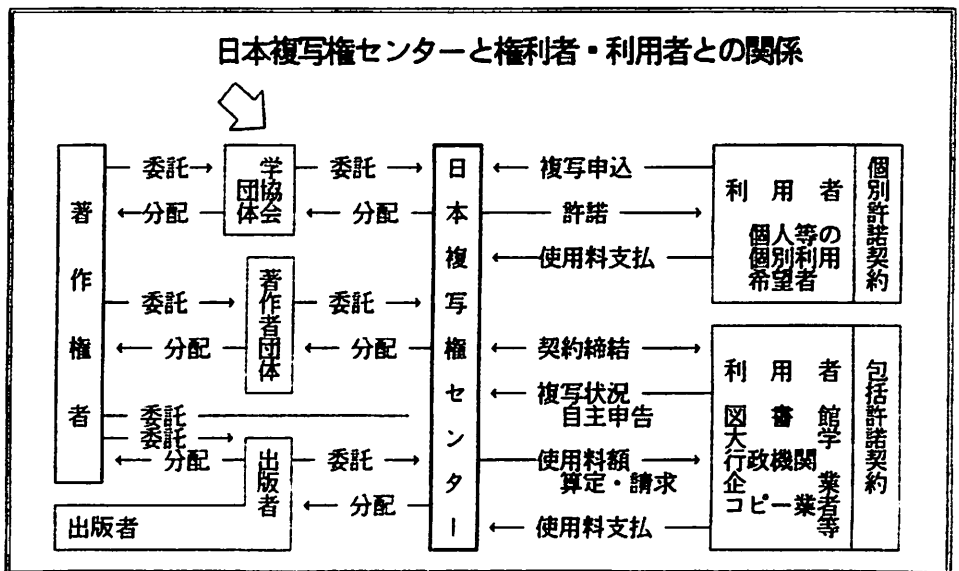
本学会の学会誌、Tissue Culture Research Communications、(組織培養研究)も年4回発刊する試みが軌道に乗っています。これも、学会員各位の熱意と編集委員の努力によるものと、敬意を表します。さて、当学会誌に発表された論文の著作権はどの様に保護されているのでしょうか。「組織培養研究投稿規定」の第14項には「投稿論文の著作権は、日本組織培養学会に帰属する。」とあります。学会としては、帰属された論文が、学術や営利目的でコピーされた場合、どの様に対処すべきでしょうか。当学会では、そこが現在未定になっております。

他の、自然科学系の学会では、どの様にしているのでしょうか。まず大多数の学会では、我々の学会誌と同様に、著作権の学会への帰属が唄われております。そのうちの約70%（92年6月現在）の学会が、複写権を「学協会著作権協議会」に委託しております。委託した学会は、日本生化学会、日本生物物理学会、日本動物学会、日本病理学会、日本薬学会、日本細胞生物学会、日本獣医学会、等々です。われわれ、日本組織培養学会としても、どのように対処すべきか未定のままにしておけない時期にきております。

学協会著作権協議会（略称「学著協」－英文名、The Copyright Council of the Academic Societies(CCAS))について紹介します。図1の中央に「日本複写権センター」がみえます。これは、複写について、著作権者の権利を養護するとともに、許諾をとろうとするコピー利用者の便宜を図るために、複写に関する権利を一カ所で集中管理していく団体として、著作者、学協会、出版者など13の団体に1991年9月に設立されました。外国でも、米・英・独・仏をはじめ多くの国にこの種の団体が設立されています。学著協は、図1の左上部（矢印）の学協会団体の著作権の集中処理を行うものとして、学協会の賛同者により構成されています（先に述べましたように、自然科学系では70%が加盟）。左端の著作権者は、各学会あるいは個人です。図1の右側に利用者（コピーする人）がおります。

各大学、企業、研究機関は、日本複写権センターと、包括許諾契約を結び、コピー利用状況に応じて、年間一括料金をおさめます。それらに属する利用者はコピーができます。複写センターに集まった料金は、実績に応じて、著作権者に還元されます。しかし、現在のところ、それは事務経費で消費され、実際に著作権者に還元するところまでは至っておりません。なお、学著協の会員会費は、本学会は1年に2,000円です。（2,000人以下の学会員）。

幹事個人としましては、対外的な要請でもあり、学著協に加盟すべきであろうと判断致しております。学会員皆様の御意見をお待ちしております。93年度の学会大会に、幹事会として提案を行う予定でおります。



§ 組織培養研究への投稿論文募集のお知らせ

日本組織培養学会の機関誌である組織培養研究（以下TCRCと略）は、本年11巻を数えるに至りました。

TCRC編集委員会では、内容の充実とスタイルの一新をはかるべく検討を重ねてまいりました。具体的方策として、①年2回の発行を年4回に増刊すること、②学会員の研究活動を海外の研究者に、また海外の研究情報をより広く国内の研究者に知っていただくためにも、投稿論文を英文主体に移行したいこと、③投稿論文の公正な審査体制を確立するため、国内外の25名の組織培養研究者に審査委員承諾していただいたこと、④学会誌のスタイルの一新と統一などを検討、実行してまいりました。

先の6月山形市で開催された第65回大会総会において、年4回発行が本決まりとなり、いよいよ新生TCRCのスタートとなりました。特に発行回数がふえたことで、論文の新規性が損なわれることなく読者に伝えられるようになりました。

TCRCを優れた論文の発表の場として大いに活用していただきたいと思います。学会員皆様からの積極的な論文投稿をお待ちしております。

尚、論文投稿規定は、TCRC巻末に掲載してありますので参照して下さい。

（文責 星 宏良）

論文投稿問い合わせ先 : ㊞990 山形市南三番町11-26 ㊞機能性ベチブド研究所内 組織培養研究編集事務局 星 宏良
--

§ 第2回アジア・太平洋細胞生物学会 (APOCB)のお知らせ (予告)

APOCB事務局長 沖 垣 達

第2回アジア・太平洋細胞生物学会 (2nd Congress on Asian-Pacific Organization for Cell Biology) が、1994年10月下旬、Australia, Sydney の Darling Harbour Convention Centre で開催されます。

既に、主催団体であるAustralia-New Zealand Society for Cell Biologyがプログラムを編成中で、日本からも著名な研究者を招聘することになっています。今回は意図的に細胞生物学と分子生物学の密着した主題をシンポジウム、ミニシンポジウムの中心においています。

APOCBは、日本細胞生物学会をはじめ17の国や地域の研究者からなる団体で、第1回会議は1990年に中国、上海で約500名の参加のもとに行われています。最新の研究につ

いて発表、討論を進めることは勿論ですが同時に、アジア・太平洋地区の研究者、学生と交流を深めることを目的としています。

Australia の10月は春たけなわ、近代的な総合リゾートである Darling Harbourが会場です。今後共、準備の進展に応じて報告させていただきます。

なお、第3回会議は1998年に日本で開催されることに決定しており、既に準備委員会が作られていることを申し添えます。

§ 関連学会及びセミナーの開催

1) 第9回初代培養肝細胞研究会

日時 平成5年6月11日(金)、12日(土)

場所 徳島県郷土文化会館

締切 演題(和文)申込締切日 平成5年3月15日

出席、発表の詳細は下記まで郵便にてお問い合わせ下さい。

連絡先 初代培養肝細胞研究会事務局

〒770 徳島市蔵本町3丁目18番地の1

徳島大学酵素科学研究センター 酵素病理部門

世話人 徳島大学酵素科学センター

市原 明

2) XV INTERNATIONAL BOTANICAL CONGRESS, TOKYO

Congress Center of Pacifico,

Yokohama, Japan

August 28 → September 3, 1993

(第十五回国際植物科学会議組織委員会)

3) 第2回国際病態生理学会総会後援のご依頼

第2回国際病態生理学会総会

会長 大村 裕

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、平成6年11月19日～24日の6日間にわたり国立京都国際会館にて、第2回国際病態生理学会総会を開催することになりました。本学会の開催趣意書は現在制作中のため、ご参考までに別紙説明書を添付させていただきます。本学会の主旨をご理解いただき、後援団体のご受諾をいただきたく、ここにお願ひ申し上げる次第であります。尚、実務は組織委員会がおこないますので、貴学会に特別な負担をおかけするようなことはございません。

貴学会誌に当総会の告知掲載が可能か否か、併せてお尋ね致したく存じます。
掲載の可否を含め、年間発行回数、経費等をお知らせいただきたく、返信用ハガキをお
届け致します。

ご多忙中まことに恐れいりますが、後援団体としての諾否のご返事及び貴学会誌への
掲載可否を、同封の返信用ハガキで8月21日までにお知らせ下さい。尚、本件につま
まして疑問の点がございましたら、下記宛に直接お問い合わせ下さい。

敬 具

問い合わせ先 : 第2回国際病態生理学会総会事務局
〒879-55 大分県大分郡挾間町医大ケ丘 1-1
大分医科大学第1内科教室気付
坂 田 利 家
Tel : 0975-49-4411
Fax : 0975-49-4480

S 編集後記

- 第七回日本組織培養学会秋季シンポジウムは成功裡に終わりました。同じ日の幹事会
では、前日の大雨による大幅な交通機関の乱れで出席できない幹事もありました。し
かし、シンポジウム会場はそんな交通機関の乱れと関係なく、立って居られる方も多
い熱気のこもったものでした。
- 秋季シンポジウムの成功、また、1月のシンポジウムプログラムはこれからの組織培
養研究の方向を示すものと思われまます。技術としての組織培養研究の確立にともな
ってとすれば忘れられがちなフロンティア精神をもって、旧くて新しい課題である細
胞の機能研究を進めていくことが、今ほど求められているときはないと思います。
- 6月に開かれる第66回大会のお知らせを掲載致しました。三井洋司先生のもと実り多
い大会となることと楽しみにしております。

(TM)

平成4年5月から平成4年10月末まで
(11月21日現在)

§ 新入会員

氏名	現住所	所属機関・所在地
岡 修 一	〒305 つくば市松代 4-407-402 ☎0298-51-8975	工業技術院微生物工業技術研究所細胞機能 *部 〒305 つくば市東 1-1-3 ☎0298-54-6070
加 藤 晴 彦	〒520-32滋賀県甲賀郡甲西町菩提寺 330-201 ☎0748-74-0356	タカラベルモント(株)化粧品工場品質保証課 *〒520-32滋賀県甲賀郡甲西町高松町 ☎0748-75-0792
加 藤 博 文	〒990-23山形市飯田 5-7-3-2H ☎0236-23-2879	山形大学大学院医学研究科 *〒990-23山形市飯田西 2-2-2 ☎0236-33-1122
木 村 栄 成	〒213 川崎市高津区溝口 379-1 A501 ☎044-833-0890	東海大学医学部耳鼻咽喉科学教室 *〒259-11伊勢原市望星台 ☎0463-93-1121
熊 崎 努	〒732 広島市東区牛田早稲田 3-11-21 -504 ☎082-227-1410	広島大学原爆放射能医学研究所 *〒734 広島市南区霞 1-2-3 ☎082-251-1111
小 池 敏	〒315 石岡市南台 1-19-13 ☎0299-26-2746	アップジョン・ファーマシューティカルズ *・リミテッド筑波総合研究所 〒300-42つくば市和台 23 ☎0298-64-3800
高 景 準	〒247 横浜市栄区笠間町 1124 ☎045-893-4983	新星産業(株) *〒160 新宿区歌舞伎町 2-42-16-3B ☎03-3207-5781
庄 司 勝	〒982 仙台市太白区桜木町 11-3 ☎022-229-1673	東北大学医学部第2外科 *〒980 仙台市青葉区星稜町 2-1 ☎022-274-1111
申 在 均	*〒177 練馬区南田中 1-18-15 辛様方 ☎03-3995-6101	朝鮮大学校 〒187 小平市小川町 1-700 ☎0423-41-1331
鈴 木 光 明	〒338 与野市大戸 1-12-12 ☎048-833-4302	自治医科大学産婦人科 *〒329-04栃木県河内郡南河内町薬師寺 3311 ☎0285-44-2111
高 垣 欣 也	〒426 藤枝市南駿河台 4-4-21 リヴェルM B-202 ☎054-644-7400	持田製薬(株)安全性研究所 *〒426 藤枝市源助 342 ☎054-635-3211

氏名	現住所	所属機関・所在地
橋 紀 悟	〒305 つくば市吾妻 4-16-4-309 ☎0298-55-9787	クバイエスベック(株)研究開発部 *〒530 大阪市北区天神橋 3-5-6 ☎06-358-4511
持 田 浩 一	〒115 川口市芝 4-12-2 ☎0482-69-4698	持田製薬(株)バイオサイエンス研究所 *〒115 北区神谷 1-1-1 ☎03-3913-6261
日 立 岩	〒700 岡山市富町 2-20-17 ☎0862-53-9344	岡山大学医学部附属分子細胞医学研究 *施設細胞生物学学部 〒700 岡山市鹿田町 2-5-1 ☎0862-23-7151
古 江 美 保	〒221 横浜市神奈川区六角橋 6-9-1 -202 ☎045-481-0561	神奈川県立こども医療センター歯科 *〒232 横浜市南区六ツ川 2-138-4 ☎045-711-2351
松 田 哲 久	〒910 福井市文京 2-7-18 牧ノ島メゾ ンドール602 ☎0776-28-1956	福井医科大学医学部附属病院検査部 *〒910-11福井県吉田郡松岡町下台月第 23-3 ☎0776-61-3111
三 島 聡	〒236 横浜市金沢区高舟台 1-13-20 ☎045-782-6777	高砂香料工業(株) *〒144 大田区蒲田 5-36-31 ☎03-3734-1211
山 本 正 義	〒250 小田原市清水新田 253-4 ☎0465-32-4385	富士写真フィルム(株)朝霞研究所 *〒351 朝霞市泉水 3-11-46 ☎048-468-2328
岩 井 秀 樹	〒920-02河北郡津幡町字加賀爪ハ 83 ☎0762-89-2034	金沢医科大学第1病理学教室 *〒920-02河北郡灘町字大学1丁目1番地 ☎0762-86-3511
近 藤 健	〒332 川口市飯塚 3-6-21 ☎048-258-3922	(株)コーセー研究所 *〒114 北区栄町 48-18 ☎03-3919-6131
山 野 端 万 理	〒190 立川市若葉町 4-25-1 ☎0425-37-1202	創価大学生命科学研究所 *〒192 八王子市丹木 1-236 ☎0426-91-9470

S 住所変更

氏名	現住所	所属機関・所在地
阿部 力	*〒411 三島市芙蓉台 1-16-18	
磯辺 靖	〒170 豊島区南大塚 1-50-9 サンハイム大塚 201	東京医科歯科大学医学部 *〒113 文京区湯島 1-5-45 ☎03-3813-6111
金村 成智	〒612 京都市伏見区深草フケノ内町 2 ☎075-647-0247	京都府立医科大学歯科 *〒602 京都市上京区河原町通広小路上 梶井町 465 ☎075-251-5641
桑名 貴	〒862 熊本市東町4-2 東町南住宅4-15 ☎096-368-4158	国立水俣病研究センター基礎研究部病理室 *〒867 水俣市浜外平 4058-18 ☎0966-63-3111
小浦 雅敏		ライフテックオリエンタル㈱ *〒103 中央区日本橋小伝馬町 10-11 ☎03-3663-8241
古賀 龍彦	〒812 福岡市博多区千代 5-1-4-905 ☎092-641-8783	山口赤十字病院内科 *〒753 山口市八幡馬場 53-1 ☎0839-23-0111
清水 石淳	*〒340 草加市瀬崎町 1303-1 第二フタバハイツ 203 ☎0489-24-2133	国立がんセンター研究所化学療法部 〒104 中央区築地 5-1-1 ☎03-3542-2511
城子 康子		蓮見癌研究所組織培養室 *〒182 調布市国領町 5-45-6
杉崎 勇治	*〒185 国分寺市新町 1-12-40 ☎0423-24-4444	富士レジオ㈱八王子工場 〒192 八王子市小宮町 51 ☎0426-45-0071
中野 博行	〒222 横浜市港北区太尾町 991 ポーラアパート B103 ☎045-543-3203	ポーラ化成工業㈱中央研究所皮膚科学研究 *部 〒244 横浜市戸塚区相尾町 560 ☎045-826-7231
本間 一久	*〒257 秦野市鶴巻北 2-2-1-908	泉工医科工業㈱心肺部 〒113 文京区本郷 3-23-13 ☎03-3812-3254
増澤 幹男	〒251 藤沢市片瀬海岸 3-3-17 ☎0466-23-5159	北里大学医学部皮膚科 *〒228 相模原市北里 1-15-1
松本 克夫	〒245 横浜市泉区新橋町 628-3 ハイムガーデンア A-101 ☎045-813-1070	ポーラ化成工業㈱中央研究所皮膚科学研究 *部 〒244 横浜市戸塚区相尾町 560 ☎045-826-7231

氏 名	現 住 所	所属機関・所在地
三ツ木 健二	〒813 福岡市東区御島崎 1-22-303 ☎092-672-8293	松山赤十字病院内科 *〒790 松山市文京町 1 ☎0899-24-1111
機 関 名		
理化工業(株)BMM開発推進部		〒100 千代田区内幸町 1-1-1 インペリ アルタワー ☎03-3507-2511
岩城硝子(株)理化装置事業部		〒273 船橋市行田 1-50-1 ☎0474-21-2090
国際試薬(株)バイオ事業部		〒651 神戸市中央区浜辺通 2-1-30 ☎078-231-4151
第一化学薬品(株)岩手技術センター		〒028-73 岩手県岩手郡松尾村松尾 4-115 ☎0195-74-3161
日水製薬(株)診断薬研究所		〒307 結城市北南茂呂 1075-2 ☎0296-35-1221

§ 退 会

氏 名	機 関 名
野 信 二	オリンパス光学工業(株)第二事業部染色体研究センター
村 博	グレースジャパン(株)アミコン事業部
大 河 喜 彦	富士レビオ(株)
大 和 田 寛	山之内製薬(株)製品企画本部
加 藤 四 郎	
金 子 昌 生	
塚 田 聡 子	
堀 越 勝	
宮 本 寛 治	
堀 本 東 吉	
渡 辺 正	